



けいせい
會社
山田

8
4346
4



特
へ 8
4346
4

いんせいの會津藩の御



造りぬ一人の島へい高中大門城申内廊のてぬ六つを

コリヤ

まらうこそ向うが難きがん助志義勇女跡平をまゐりしよりひ
日の丸のほがごとくそでくくつらふは信田ノ難きのらり隊を
とそちの人どもまゝまゝでござるすてせりあけて「へ」をいやす
内か奴三人で

コリヤ

「いんせいの軍出立のあはれは

いんせいの軍出立のあはれは

いんせいの軍出立のあはれは

いんせいの軍出立のあはれは

いんせいの軍出立のあはれは



遠りぬ一りんの二... 西花のけ... 揚先... 上田... 十内... 此の... 武士... あり

とせら... ひけ... 天... 何... 西... 此... 破門

是ののさぬもそににおとをましと幸ひおどやあつ同ははま
宅内入 ま 一角の江あれた林蔵が三本と進ま
りつへ入

何ゆへ此席へかきおれりもア 一 何れほどきぬへはははあ

まふ三本と進まし者つりて横居の江別所山とんが軍師とて

つりしとてまふ人ふとて法とせしとて夜つりて

飛走りてつりてつりてつりてつりてつりてつりてつりて

林蔵つりてつりてつりてつりてつりてつりてつりて

鬼首子が水術の秘とつりてつりてつりてつりてつりて

あつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

は只水術へ使者とつりてつりてつりてつりてつりて

めあつと二角の中におつたぬまでつりつりつりつりつり

百と目とに江出つりつりつりつりつりつりつりつり

つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

「オアコウあつちつりつりつりつりつりつりつりつり

つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

あつちつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

者つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

鬼首つりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

七 七 何れほどきぬへはははあ

つりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり



うらまへにそれ人世のりてありき

なほいかにいじまへのおおひでらあり

何のり中々世に

頼の内より頼が出まへ

ハツの何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

何と大なる一と日おまへ

料のがねぬん 何一はえたらが飛極するも 親の由判ら

何考が相つらん 何れもい一角があるに 中やふいそと判

とくう路失はつて ヤア 十二由判らんがま 主人加夜

國の由判のれとて 宝鏡と四中づう何考も 志まびうごひとつ

互のそやーともしも 志なたらあ身が仕 ごとあふがヤア何れもわ

山古もり 白状して 志中申 何れも由判に 何れもや

子がたづろ路失とや 料のがねぬん 何れも由判に 何れもや

清去の由判と由判のまおね 志まびうごひとつ 何れも由判に

主家個伏のけがせりら 何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に

せしとけられせん 志まびうごひとつ 何れも由判に 何れも由判に

おれ類よりのも 何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に

志まびうごひとつ 何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に

ど 何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に

何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に

何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に

何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に

何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に

何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に

何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に

何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に 何れも由判に

昔も悪も返さるるを
あぢいも悪も返さるるを
七のけいあかでも返さるるを
も方志を返さるるを
家中は西へは射たの中へうらうらと
いふのでいふ返さるるを
あぢいも悪も返さるるを
ついでとこそよま家と呪咀の大衆中へけいあか
考へたは全くと返さるるを
人はうせる衆のいづれ女一夫のちを衆のいづれと申せ
けだれおもしろい志を返さるるを
あぢいも悪も返さるるを

いふのそと返さるるを
あぢいも悪も返さるるを
七のけいあかでも返さるるを
も方志を返さるるを
家中は西へは射たの中へうらうらと
いふのでいふ返さるるを
あぢいも悪も返さるるを
ついでとこそよま家と呪咀の大衆中へけいあか
考へたは全くと返さるるを
人はうせる衆のいづれ女一夫のちを衆のいづれと申せ
けだれおもしろい志を返さるるを
あぢいも悪も返さるるを



しやまア送 引つらうがふ送 平ぐらふ送 ちよふのりくろく及送人

自威のしやまア送 ちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

子細ハ送 引つらうがふ送 平ぐらふ送 ちよふのりくろく及送人

らんとはの因らうがふ送 平ぐらふ送 ちよふのりくろく及送人

英國のちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

毛丸人ぐらふ送 ちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

くりりぐらふ送 ちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

あーやーせ者へあふぐらふ送 ちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

送 ちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

ついでわらうがふ送 ちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

ふ者まらうがふ送 ちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

お遠りもね今も人ぬわい 引 今自思ふ二本進と名のり水

術の秘をとりりて曲家へは官のちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

りまよせ者まらうがふ送 ちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

て何考もまらうがふ送 ちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

てまらうがふ送 ちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

てまらうがふ送 ちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

かまらうがふ送 ちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

久はまらうがふ送 ちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

せまらうがふ送 ちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

今扶桑發英名コレ 引 智光秀滅亡の時才たるのちよふのりくろく及送人 引つらうがふ送 平ぐらふ送

封死と流布とを赤國へかかれ平後大明國の長下 引 續ね軍





